

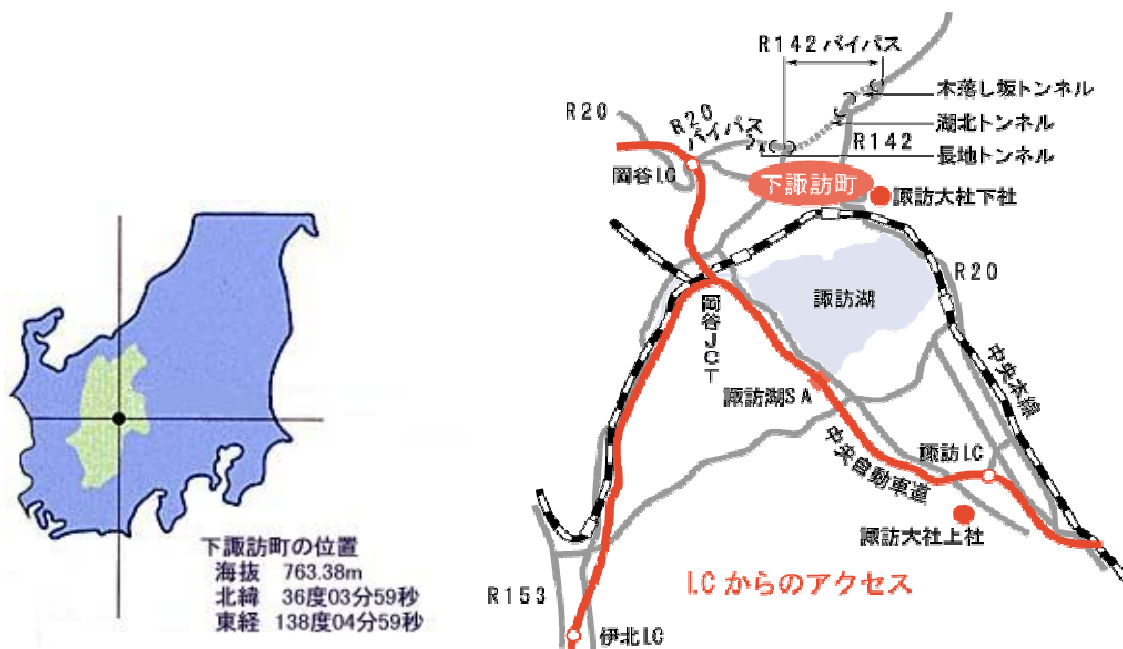
## 事例番号 075 地域に受け継がれた匠の技でまち再生(長野県下諏訪町)

### 1. 背景

下諏訪町は江戸時代に宿場町として栄えた、甲州街道と中山街道の分岐点に位置するまちであり、諏訪大社下社の勇壮な御柱祭りが全国的に知られる。町の代表的な産業は100年の歴史を誇る製造業である(産業別就業者比率は1次1.4%、2次48.2%、3次50.4%)。明治時代には製糸産業が栄え、戦後は乾燥した気候と清涼な空気から時計、カメラ、オルゴールなどの精密機械工業が発達して東洋のスイスと称された。

軽工業の素地を精密工業へと転換できたことはこの地域の戦後を大きく変えた。下諏訪町には、周辺の諏訪盆地も含めた地域を拠点とする世界的企業、SEIKO、OLYMPUS などがある。下諏訪駅前には、かつてオルゴール生産で世界一のシェアを獲得した三協精機(現「日本電産サンキョー」)の本社がある。カメラで一時世界的メーカーとなったヤシカは、町内の御田町(みたまち)に工場を置いていた。今もこの地域を支える中小製造業や商店の創業者の中には、これらの企業から独立した者も多い。

工業以外の町の産業としては観光業があげられる。諏訪大社下社で6年に1度举行される「御柱祭」は巨木が坂を落ちる「木落し」で全国に知られる。ビーナスライン沿いには霧ヶ峰高原の天然記念物「八島ヶ原湿原」があり、シーズン中は季節の花が咲き乱れる。このような多様な観光資源の存在に大都市圏からのアクセスのよさがあいまって、町には数多くの観光客が訪れている。そのため、町内には宿場町の伝統を受け継いだ老舗温泉旅館などが今でも軒を連ねる。



下諏訪町の位置 (資料:下諏訪町ホームページ)

しかしながら近年は産業構造の転換などから事業所数、就業者数ともに減少が続いており、町の人口も1973(昭和48)年の27,502人をピークに減少傾向にある(2005(平成17年)国勢調査人

口 22,863 人)。背景には、住宅地の不足から来る新規移住者の少なさのほか、オイルショックから円高期を経て町周辺の通勤可能な地域から工場の転出が相次いだこと、市街地における勤務地を減少させたことがある。また、商業については、消費者の購買行動の変化もあって、中心市街地の商店街に空き店舗が目立つようになった。こうした空き店舗は再び出店が行われることもあるが、近年は建物ごと取り壊されて駐車場となる例も散見されるようになった。このような中、町政の新たな展開を図るため、高橋前町長の発案により町民主体の「下諏訪町はってん 100 人委員会」が 2002(平成 14)年に設立された。

## 2. 目標

「下諏訪町総合計画」(第 6 次改訂版、計画期間:平成 18 年度～27 年度)は表題を「下諏訪力の創造」、副題を「小さくてもきりと光る美しいまち」をめざして」とし、まちづくりの基本理念として次の 5 つを掲げている。

- 【自然】 自然とともに生きる美しいまちづくり
- 【くらし】 健康で安らぎに満ちたまちづくり
- 【人づくり】 創造力に富む心豊かな人づくり
- 【活力】 活力に満ちた魅力あふれるまちづくり
- 【協働】 協働と交流により輪が広がるまちづくり

一方、「下諏訪町はってん 100 人委員会」は「住民参画」と「公民協働」を基本理念として掲げ、「町民は「言いっ放し」ではなく、行政も「聞きっ放し」にならないよう、「協働」しながら、素晴らしい下諏訪町にしていく」ことを最大の目的としている。また、同委員会の中の 1 グループとして活動を開始した「匠の町しもすわ・あきないプロジェクト」は「私たちが 50 年近く精密で培ったこの『匠』=オンリーワン技術」をベースに、ヨーロッパのような職人、マイスターが集う工房街をつくることを目指すことをコンセプトとし、「本当の意味でのブランドづくりを通じて、工業ばかりでなく、様々な業種の『匠』を育て、住まうことで、将来的に本当の賑やかな街を取り戻せればと考えています」としている。

100 年の伝統を持つ製造業を基盤とした“匠の技術”や“ものづくり”は下諏訪町の地域の誇りでもあり文化でもある。これら地域に根付いた技術や文化を活かしながら、住民が自ら主体的にまち再生の活動に参加し、住民同士のネットワーク、住民と行政と企業との協働の輪を広げていくことが下諏訪町のまちづくりの大きな目標になっているものと考えられる。

## 3. 取り組みの体制

下諏訪町のまちづくりでは「下諏訪町はってん 100 人委員会」が中心的な役割を果たしている。同委員会に設置された各課題ごとのグループが、そのまままちづくり活動組織に移行しているケースも見られる。特に、まち再生の推進に直接的に関係する「匠の町しもすわ・あきないプロジェクト」は商店街活性化グループが母体となっており(商店街の「おかみさん会」に商店街の外のメンバーが加わった)、匠の技を生かした工房づくりによる商店街の活性化など、まち再生の中心的な役割を果たしている。

#### 4. 具体策

##### (1) 「下諏訪町はってん 100 人委員会」の設立

###### ① 設立の経緯

「下諏訪町はってん 100 人委員会」設立の経緯の概略は以下のとおりである(同委員会ホームページより抜粋)。

2002 年 9 月 26 日～	「下諏訪町はってん 100 人委員会準備会」開催(第 1 回、第 2 回) 準備会委員、代表決定 以降、第 8 回まで開催、設立総会へ向けて準備
2002 年 10 月 9 日	まちづくり講演会を開催(筑紫哲也氏を招聘) 100 人委員会募集要項配布
2002 年 11 月 9 日	「下諏訪町はってん 100 人委員会」設立総会開催 基本ルール、基本理念、目的の説明
2002 年 11 月 20 日	第 1 回全体会を開催 グループ分け、運営委員の選出

###### ② 会則

委員会の会則の主な規定内容は以下のようにになっている。

[委員会の位置づけ]

目的(「協働」しながら素晴らしい諏訪町にしていくこと)を実現するための町民などの自主的・自立的な組織

[会員]

基本理念・目的に賛同し、基本ルールを守ることを約束した個人  
公募人数は制限しない。

会員資格は町内、町外を問わない。

会員は会費を負担する。

入会申し込みは随時受け付ける。

###### ※基本ルール

1. 責任を持って、提言し活動する。
  2. 学習をしながら、計画的に活動を進める。
  3. 自分にあつた無理のない活動をする。
  4. 互いの立場を尊重しプライバシーを守る。
  5. 活動は仲良く、和やかに、楽しく進める。
  6. 集合時間等、約束の時間を守る。
- 提言も重要だが活動(住民も交えて)をしていくことに重きを置く。

[グループの設置]

グループは委員会活動の中核をなすものであり、会員の要求に従い運営委員会で設置する。  
各グループの人数は 5～30 人程度とするが特に制約はしない。

会員は複数グループへの参加が可能。入会順序による差別はしない。

※これまでに下記のグループが設置されている。

- ① 合併グループ ② 赤砂崎グループ ③ イベントグループ
- ④ まちづくりグループ ⑤ 観光まちづくりグループ
- ⑥ 匠の町しもすわ・あきないプロジェクト(旧・商店街活性化グループ)
- ⑦ 教育グループ ⑧ 人権グループ ⑨ 環境グループ
- ⑩ 福祉のまちづくりグループ ⑪ 声なき声 110 番
- ⑫ 自由討議グループ ⑬ 外から見た下諏訪

#### [グループ活動の基本]

結論を急がず納得のいくまで議論を深め、合意後はそれを尊重し責任を負う。

課題ごとに長期的・短期的な区分に分けて提言作りを目指す。

少数意見も尊重する。合意には少数意見も付記する。

グループ活動は原則として公開とし、会場の許す範囲で傍聴も自由とする。

グループ活動に要する費用は各グループの負担とする。

提言は運営委員会への報告を経て代表立会いのもとで行政等に行う。

#### [運営費用]

運営費用は、会費、寄附金、その他の収入でまかなう。

## (2) 市民による商店街の空き店舗活用

### ① 「匠ぷらっと SHOP」(商店街の空き店舗を活用したクラフトショップ)

2003年に「下諏訪はってん 100 人委員会」の「匠の町しもすわ・あきないプロジェクト」(旧商店街活性化グループ)が長野県の「小規模事業経営支援等事業」(チャレンジ枠)助成金に採択され、拠点づくりに取り組んだ。町内の商店や住民に呼びかけて「あるもの(空き箱や廃材)」を集め、それらを組み合わせて御田町商店街の空き店舗をメンバーである住民が手づくりで改築し、同年 7 月に事務所と「匠ぷらっと SHOP」とを開店した。「匠ぷらっと SHOP」では地元陶芸家の作品やクラフトなどを販売し、口コミによる来店者が訪れるようになった。



「匠ぷらっとショップ」(資料:匠の町しもすわ あきないプロジェクトホームページ、以下同じ)

## ② 「匠ぷらっと SHOPS」(歴史的建造物を活用したクラフトフェア型イベント)

御田町商店街に程近い中心市街地のはずれに、築 100 年の繭保管庫「下諏訪倉庫(木造 5 階建て土蔵)」があった。これは、かつて町がシルク産業でにぎわったところに建てられた繭の乾燥・保管庫であったが、価値ある歴史的建築物でありながらも老朽化して利用されていなかった。「匠の町しもすわ・あきないプロジェクト」は、商店街の空き店舗での SHOP 開店に続き、この下諏訪倉庫を再生する活動に取り組み、2003 年 11 月にクラフトフェア型イベント「匠プラット SHOPS」を開催した。

このイベントは、商店街の SHOP 開店に伴って構築されつつあったクラフト関連の人的ネットワークと、近隣(富士見町)に新設された日本装飾美術学校との連携により行われた。会場となった諏訪倉庫内に 26 の工房と工芸品の展示販売を行う 19 の店舗を配置し、森世紀工房(マイスター)の家具、おかみさん会、体験ブース、陶器・木工・七宝焼・ガラスなどの工芸やパン・和菓子、美術学校からの出品等で賑わった。また、当日は「ものづくりとまちづくり」シンポジウムを開催し、2 日間で 1,030 人の集客があった。

期間中に実施したアンケートの結果によれば、町内からの参加者は 56%、周辺市町村からの参加者は 44%であり、広域から集客することができた。好評であったイベントは翌年(2004 年 11 月)にも「匠ぷらっと SHOPS II」として開催され、参加店舗数は 42 店舗(うち工房数は 35)、2 日間の来場者数は約 2,200 人となった。



下諏訪倉庫



匠ぶらっと SHOPS イベント

### ③ 商店街空き店舗への工房誘致

SHOP 開設による商店街の拠点づくり、SHOPS イベントの開催によりクラフト関連の人的ネットワークが広がった。その成果を活用し、2003 年暮れごろから商店街の空き店舗を改築する工房の開設事業を開始した。メンバー同士のメールのやり取りなどのコミュニケーションの中から出展希望者の募集を進めた結果、老朽化した築 40 年の空き店舗を地元出身の女性が手づくりで改築して 2004 年 4 月に洋装&雑貨の店「すみれ洋装店」を開店した。その他にも、日本装飾美術学校の教員(作家)と卒業生によるガラス工房「淡々」なども開設され、商店街が単に「物を売る」だけの場ではなく「修行の場」としても機能を果たすという新しい試みが始まっている。



手づくりで店を改装

### (3) 手づくり看板プロジェクト

SHOPS イベントで広がったネットワークの中から、商店街の看板を個性的な手作りのものにしてはどうかという提案が生まれ、「御田町商店街看板プロジェクト」が発足した。同プロジェクトではヨーロッパの商店街などに学び、店が扱う商品や店の個性を表現したユニークな看板のデザインが検討された。匠の手による手作りの看板が既に 8 店舗で完成あるいはデザイン中である。

#### (4) 「インダストリアルツーリズム」による地域活性化への取り組み

「匠の町しもすわ・あきないプロジェクト」では、商店街活性化にとどまらず、地域のものづくりの伝統文化やこれまでの活動で構築した工房・人的ネットワークを活用した「インダストリアルツーリズム」の展開に取り組んでいる。インダストリアルツーリズムとは、下諏訪の地域資源である匠のものづくりを核とした体験型旅行である。工房等をまちの観光資源として位置づけ、そこで工業製品やものづくりの現場を見学したり、自らものづくりを体験したり、また、それらを刺激としてもものづくりを高度化することなどでまちの経済を活性化しようというねらいがある。

このインダストリアルツーリズムの考えの下で、2004年4月24～25日にワーキングキャンプが行われた(主催:アースデイ長野、諏訪湖オルゴール博物館奏鳴館、匠の町しもすわ・あきないプロジェクト)。キャンプの内容は、萩倉地区(御柱の森周辺)での間伐材の引き出し体験(オルゴールのフレーム用)、御柱見学(木落とし坂等)、クラフト体験(制作したオルゴールフレームにガラスモザイクのデザイン加工)、「諏訪湖オルゴール博物館奏鳴館」でオルゴールの組み立て等であった(「匠の町しもすわ・あきないプロジェクト」ホームページから抜粋)。

このキャンプの最終目標地点となった「諏訪湖オルゴール博物館」はツーリズムのひとつの拠点として位置づけられている。下諏訪町には一時オルゴール生産で世界シェア1位となった三協精機製作所の本社があり、1970年ごろには世界のオルゴールのほとんどをこの地で生産していたが、その三協精機製作所の貴重なコレクション約120点を展示するのがこの「諏訪湖オルゴール博物館奏鳴館」である(1993年3月オープン)。下諏訪町諏訪大社秋宮大鳥居前に立地する大正ロマン風の2階建ての洋館である。この博物館には、様々なオルゴールの展示、古典オルゴール、ストリートオルガン等の演奏の他、工房でのオルゴール作り体験コーナーがある。そのコーナーでは、プロのスタッフの指導の下、部品の組み立てから音色の調整までを体験することができ、世界で一台の自分だけの音作りができるということで、下諏訪町観光のひとつの目玉になっている。それは、ものづくりの楽しさを発信していこうというひとつの試みでもある。オルゴール博物館では、オルゴールのケースのガラス細工などで匠ぶらっとSHOPSの工房や空き店舗に出展した工房と連携しており、その町全体への波及効果も大きなものとなっている。

インダストリアルツーリズムでは、これまで町内で展開してきた様々な事業を有機的に組み合わせることが重要であることから、町全体の産業、商業、観光との連携に取り組んでいる。その一環として2004年には通称「三角八丁」(さんかくばっちょう、八丁の路で三角形に囲まれた昔からの地域)の旧市街地でさまざまなイベントを同時開催する「ぶらりしもすわ三角八丁」を開催した。旅館組合による「宿場祭り」、下諏訪町による「諏訪大社ライトアップコンサート」、商店街等によるスタンプラリー、フリーマーケットなど、町全体の多様な主体を巻き込んだ大掛かりな催しとなった。

#### 5. 特徴的手法

地域の資源であり文化である匠の技に着目し、工房をネットワークでつなげることで商店街の新たな魅力の創出を図っている。同時に、インダストリアルツーリズムという仕掛けで町全体の既存資源の有機的連携を図り、その相乗効果によって成果を地域に波及させる試みを行っている。

匠の町しもすわ・あきないプロジェクトは、商店街活性化の基本的目標を「来街者の恒常的な確保」と「個店の収益体質改善」としている。また、①費用をかけずにハードを整備して固定費の出費

をできるだけ少なくし、②新しい店舗の誘致を行う、という2点が「活性化」成否の指標になると考えている。同プロジェクトでは幾度となく検討会を実施した結果、同会の活動は、空き店舗をボランティアで改装することにより既存ストックを活用することでコストを抑え、また工房という新しい経営主体を誘致することで既存店舗との競合を避けたことが会の初期の成功を支えたといえる。

**ぶらり しもすわ 三角八丁!**  
さんかくばっちょう

イベントもり沢山。新しい魅力発見。  
秋の日 ぶらり、下諏訪を歩きませんか?

**三角八丁って?**  
春鳥居を南に行くとしんきんの南側に大きい灯籠があります。そこは、春宮大門と御申山道の交差点になります。ここから春宮までと春宮までの距離が丁度、同じ「八丁」です。そして、その二つの道を結ぶ申山道を含めた三角形を「三角八丁」と呼んでいたようです。いつからというは不明ですが、江戸時代ごろから呼ばれているのでは、とみえます。

**三角八丁 スタンプラリー**  
「三角八丁」をぶらり歩き、名所・博物館・イベント会場をまわります。各ポイントでスタンプを集めると、素敵なプレゼントが! 詳細はつら面に。

**街かど博物館**  
小さなふれあいと新しい街かど。ぶらり、冬を歩いてみましょう。

**2004 11/6(土)・7(日)**  
下諏訪町「三角八丁」周辺各所にて開催  
雨天決行・詳細は裏面に  
「ぶらりしもすわ 三角八丁」に関するお問合せ  
下諏訪町産業観光課(観光課)  
tel. 0266-27-1111 (352,356)  
下諏訪商工会議所  
tel. 0266-27-8533  
匠の町しもすわ ぶらりとSHOPS II  
主催: 匠の町しもすわ あきないプロジェクト  
tel. 0266-27-8033  
下ノ諏訪信託コトリ  
主催: 下諏訪町観光協会、女将の会  
tel. 0266-28-2231  
郷土ファイルイベント  
主催: 下諏訪町歴史実行委員会  
tel. 0266-27-1111 (356)  
三角八丁スタンプラリー  
主催: 下諏訪観光協会  
tel. 0266-27-1111 (356)  
美術館 秋祭り  
主催: 下諏訪町文化センター、博物館、美術館  
tel. 0266-26-7300  
備前堂 秋祭り  
主催: 諏訪町の科学館 備前堂  
tel. 0266-27-0001  
朝市ファイルイベント  
主催: 下諏訪町産業観光課  
tel. 0266-27-1111 (333)  
信州下諏訪信本町コンサート  
主催: 下諏訪町産業観光課  
tel. 0266-27-8455  
「500万人トランザン下諏訪」  
主催: 下諏訪町観光協会、下諏訪町産業観光課  
tel. 0266-27-1111  
フリーマーケット  
主催: (朝)下諏訪町、(下)下諏訪町産業観光課  
tel. 0266-27-1111 (352)  
物産展(テント村)  
主催: (朝)下諏訪町、(下)下諏訪町産業観光課  
tel. 0266-27-1111 (352)

●古文書館・歴史館 郷土博物館の古文書など  
●下諏訪産産物産物産館 郷土の貴重な産物  
●蔵 個人蔵、カマツの歴史と東海道の宿 古伊勢  
●駅と蔵の資料館 お茶屋跡、御申山、ハルル  
●歴史博物館 郷土の歴史、民衆の生活  
●風物書 郷土の歴史を語る人々の言葉

★当日、お手伝いしていただくボランティアの方を募集しています。  
詳細は、下諏訪町産業観光課 (tel.27-1111)356) までお電話ください。

「ぶらりしもすわ三角八丁」イベント

## 6. 課題

### (1) 活動内容の課題

匠の町しもすわ・あきないプロジェクトは、商店街や地域に根ざしたコミュニティネットワークを活かして地権者との交渉を行い、空き店舗を工房に再生して一定の成果を得た。そして最近では地権者から「店舗が空いたので何とか考えてほしい」との依頼が団体宛に届くまでになったが、店舗管理などボランティア団体として法的責任を負うことについては限界もあり、商工会議所などの公的機関との連携が不可欠となっている。

### (2) まちづくりの担い手の課題

全国各地のまちづくり団体と同様、本町でも資金のほか担い手の課題を抱えている。

匠の町しもすわ・あきないプロジェクトの場合、「おかみさん会」という既存の団体に商店街以外のメンバーをあえて加えて「匠プロジェクト」を発足させたことがひとつの成功要因になったと考えられる。この構成は、外部の視野や発想の導入、商店街の意見調整、活動の継続性確保に大きな役割を果たしてきた。今後とも様々なイベントや事業を通して連携体制の維持、同会参加メンバー



の確保を図ることが重要であるが、今後はさらに専門的な視野や知識を持ったメンバーの参加が求められている。

### (3) 財源についての課題

匠の町しもすわ・あきないプロジェクトの財源確保が課題となっている。取り組み開始当初は助成金等を活用してきたが、自治体の財政難もあり継続的な助成を期待できないのが現状である。商店街組織の上に成立しているこの組織は、既存の商業会組織との競合を避けるため、会費を徴収しにくい状況にあり、委託事業やスポンサーなどを探す方向を模索している。

(参考・引用文献)

『新都市 Vol.58』

下諏訪町ホームページ

下諏訪はってん 100 人委員会ホームページ

匠の町しもすわあきないプロジェクトホームページ